

## 粒子線治療における薬剤師の役割

薬剤師長 柴田 直子

4月付けで兵庫県立姫路循環器病センターから異動してまいりました。県立病院に薬剤師として勤務して20年、当センターが病院として4施設目の勤務先となります。このうち、がん治療については兵庫県立柏原病院および兵庫県立がんセンターにて、呼吸器内科、乳腺外科、泌尿器科、脳外科等様々ながんの薬物治療に関わっておりました。そしてこのたび、最先端の粒子線治療施設である当センターで新たに粒子線治療に携わることになり、更にごん治療についての貴重な経験の場を頂いたと感じております。

粒子線治療は、その安全性と有効性から今年度の診療報酬で4月より前立腺がんや頭頸部がんの一部が保険適応拡大されました。また、現在も多数の臨床試験が進行していることから、今後更なる適応拡大が予測されます。その中で、粒子線治療の効果向上を目的として抗がん剤を併用するケースが増えていくのは必然であり、薬物によって生じる副作用に対する予防や治療への支援がますます重要になってくると思われます。

また、社会の高齢化がすすむ中、当センターにおいても、循環器疾患や内分泌疾患等全身管理の必要な合併症のある患者さんが年々増加しており、粒子線治療を安全かつ円滑に行うためには、入院治療目的以外の疾患に対する薬学的なサポートも非常に重要になっています。特に放射線単科である当センターでは、薬剤師の積極的な

薬物支援が期待されていることを肌で感じています。

そのような状況のなか、薬剤科としては「粒子線治療を安全に予定通り最後まで受けていただくことを薬の面からサポートする」ことを最も重要な役割と考えています。

具体的には

- ① 粒子線治療のターゲット疾患に対する薬物療法支援
- ② 粒子線治療のターゲット以外の疾患や疼痛に対する薬物療法支援
- ③ 粒子線治療による有害事象への対応
- ④ 粒子線と併用される抗がん剤治療への対応
- ⑤ 粒子線治療をよりよく行うための対応（体位を保つための疼痛管理、便秘・胃腸内ガスの対応）

などが挙げられます。

がん治療以外の分野においても日々薬物療法は進化しているため、薬剤師として様々な疾患に対する薬物治療に対する支援が実践できるよう知識と技術の向上をめざしていきたいと思ひます。

現在、当センターにおける薬剤師は2名と少数ではありますが、持参薬管理から入院中の患者さんへの薬剤管理指導、薬効・副作用モニタリング、抗がん剤の無菌調製、緩和ケアや栄養管理、感染対策、口腔ケア、皮膚ケア、アイケア等の様々な多職種チームへの参加、医療スタッフへの最新の医薬品情報提供など、幅広い業務に携わっています。

そのため、1日1日が非常にめまぐるしく過ぎておりますが、他の医療スタッフと連携・協力しながら、少しでも患者さんによりよい医療が提供できるよう、安全で効果的な薬物治療の実践に努めてまいります。

